レジメン登録フォーマット

申請年月日	2019年5月29日	使用開始日			
登録診療科	消化器内科・外科	申請医師	福永　睦	化学療法委員会承認	2019 年　6 月
レジメン名	アービタックス+FL				
疾患名	大腸がん	適応の備考	CVポート		
適応分類	進行再発		RAS遺伝子・BRAF遺伝子野生型進行再発大腸がんに使用　アービタックス+FOLFOXIRIの維持療法		
1コース日数	14　日間	総コース数	有効な限り コース	催吐性リスク	軽度
抗がん剤投与量・投与日	アービタックス250mg/㎡day1,8、５－FU2400mg/㎡　day1（４６時間）				

治療スケジュール　・　投 与 日 程（ 投 与 日 は ● ）　　（day）

投与順	ルート・方法	薬　剤　名	投　与　量		投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	主ルート	生食20mL	1	本 / body		●							●						
	中心静脈																		
	注射																		
2	主ルート	生食50mL	1	本 / body	15　分	●							●						
	中心静脈	ﾃﾞｷｻｰﾄ注射液6.6mg/2mL	1	本 / body		●							●						
	注射	ﾎﾟﾗﾗﾐﾝ注5mg/1mL	1	本 / body		●							●						
3	主ルート	生食250mL	1	本 / body		●							●						
	中心静脈	アービタックス	250	mg / ㎡	60　分	●							●						
	注射			/															
4	主ルート	生食50mL	1	本 / body	5　分								●						
	中心静脈																		
	注射																		
5	主ルート	グラニセトロン注ﾊﾞｯｸﾞ1mg/50mL	1	本 / body	30　分	●													
	中心静脈																		
	注射																		
6	主ルート	5%ﾌﾞﾄﾞｳ糖液250mL	1	本 / body	2　時間	●													
	中心静脈	レボホリナート	200	mg / ㎡		●													
	注射																		
7	主ルート	生食100mL	1	本 / body	46　時間	●													
	中心静脈	5-FU	2400	mg / ㎡		●													
	注射	点滴速度：46時間																	
		インフューザーポンプ使用																	
	希釈後の液量を総量100mLとなるよう調製する																		

※並行して投与する場合は、コメントを入力する。（例：Rp2とRp3を同時に投与開始する。）

【投与上の注意】

Rp 7)の5-FU注は、インフューザーポンプを使用して投与する。
穿刺時、生食を使用し、ポートの通過を確認すること。
アービタックス：希釈は生食のみ。総液量を250mLに調製。
アービタックス：前投薬として、アービタックス投与前に、ポララミン注及びデキサート注が必要。
アービタックス：投与速度は1回目のみ2時間、2回目以降1時間。
アービタックス：投与終了後は、本剤と同じ速度でラインを生食でフラッシュすること。
アービタックス：初回投与時は、400mg/㎡を2時間かけて投与、2回目以降は250mg/㎡を1時間かけて投与すること。